

地方の常識

地域特性を活かした独自規格

第4回

パーキング シエルター



北海道といえば、揚々たる新緑と広大な大地を想像する方も多いと思うが、本稿を執筆している真冬の今は、一面の銀世界である。

ところで、雪にも地方によって性質が違うことはご存じだろうか？ 北海道は気温が低く、本州の雪に比べると乾いた軽い雪



写真1 パーキングシエルター

が積もる。当然、風に流されたり、風の力によって飛んだり、巻き上がったたりしやすく、吹雪や地吹雪が起りやすい。北海道の雪は空から以上に、横から吹くのである。

吹雪が発生すると、しばしば運転不能や通行止め、交通事故が発生する。たとえば、北海道内の国道通行止めでは吹雪によるものが最も多い。

吹雪は局所的で、視程の変化が激しく、ひとたび視程障害に巻き込まれると、「ホワイトアウト」と呼ばれるほどに真っ白となって、目標物を見失ってしまい、ときには多重衝突事故や数十台の規模で走行不能になる事例もある。

前置きが長くなったが、今日ご紹介するパーキングシエルターは、このようなホワイトアウトになった場合に、走行が危険な吹雪からシエルター内で一次待避できるようなつくりられたものである。

写真1に示したパーキングシエルターは、国道40号豊富町開源に設置された、初めての

もので、1988(昭和63)年に着工し、2年の歳月をかけて、1989(平成元)年12月に完成した。

設置された開源を含む稚内―豊富間は、冬期の吹雪発生頻度が50%程度と高く、吹雪などによる通行止めも年2回程度と高い。シエルターができる前は、吹雪時には車両が放置され、除雪の障害となり、交通開放に時間を要していたという。

このパーキングシエルターは全長200m、本線2車線のほかに幅3mの駐車帯が左右にあり(写真2)、50台ほどの車が待避できる。またシエルター内には、トイレ、公衆電話、消火器、ラジオ受信システム、道路情報板、道路状況モニター(写真3)が設置されている。

吹雪時に避難した車両は、パーキングシエルター内で休憩をとったり、車両についての氷を取り除くなどしたりして、道路情報も得ながら、天候の回復を待つこととなる。

同種の施設は、国道238号猿払村にも設置されている。



写真2 シエルター内部の状況：中央部は走行帯、両端部は駐車帯



写真3 道路状況モニター

参考文献

- (1) 独 北海道開発土木研究所…道路吹雪対策マニュアル、2003年
- (2) 稚内開発建設部四〇周年誌(財)北海道開発協会、1996年

伊東 靖彦

(独)土木研究所 寒地土木研究所
(写真提供・取材協力)北海道開発局稚内開発建設部